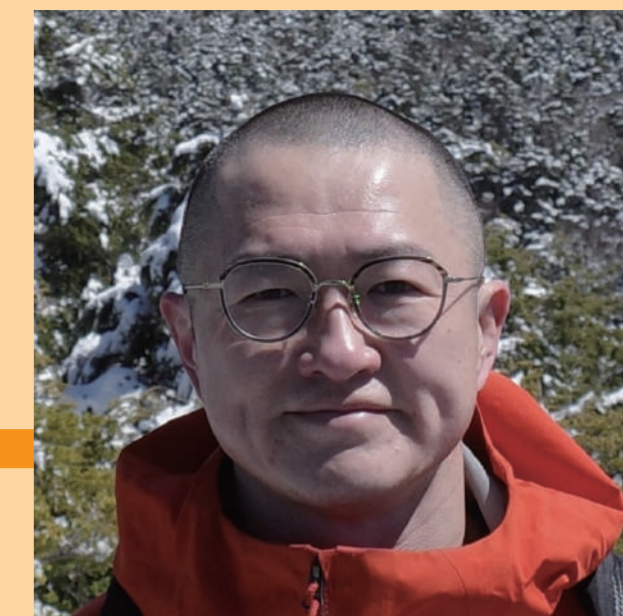


地層の中の珪藻微化石から、過去の環境変化を探る。



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

廣瀬 孝太郎

地層は、泥や砂、生物の死骸が海や湖の底に積もったものです。地層は、崖に見られる「露頭」のほか、水の底に今もできつつあります。水の底の地層は、船から筒状のケースを水の底に打ち込み、それを回収することで採取できます。これを「堆積物コア」と呼びます。堆積物コアの地層は、深い場所にあったものほど昔にできたもので、輪切りにして詳しく調べることで、過去の地球の変化が分かります。

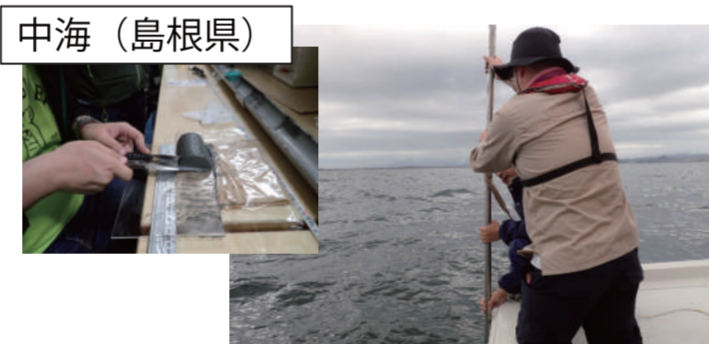
「珪藻」は、水の中に住む単細胞の植物（微細藻類）です。数100分の1～10分の1ミリメートル程度の大きさしかないので、観察には顕微鏡を使います。珪藻は珪酸質ガラスの殻を持ち、それが地層の中で小さな化石（微化石）になります。珪藻は世界中で何万種類も見つかっており、水質によって住んでいる種類が異なります。そのため、地層の中の珪藻化石を調べることで、遠い過去の環境を知ることができます。

地上に現れた地層（露頭）



淡路島の露頭。大阪湾が海になる前、200万年以上前に積もったもの。

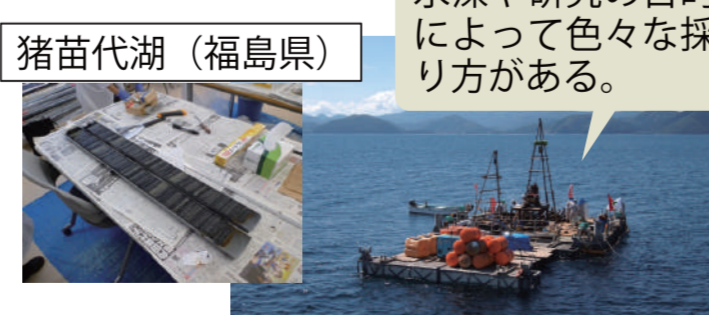
海や湖での堆積物コア採取



中海（島根県）



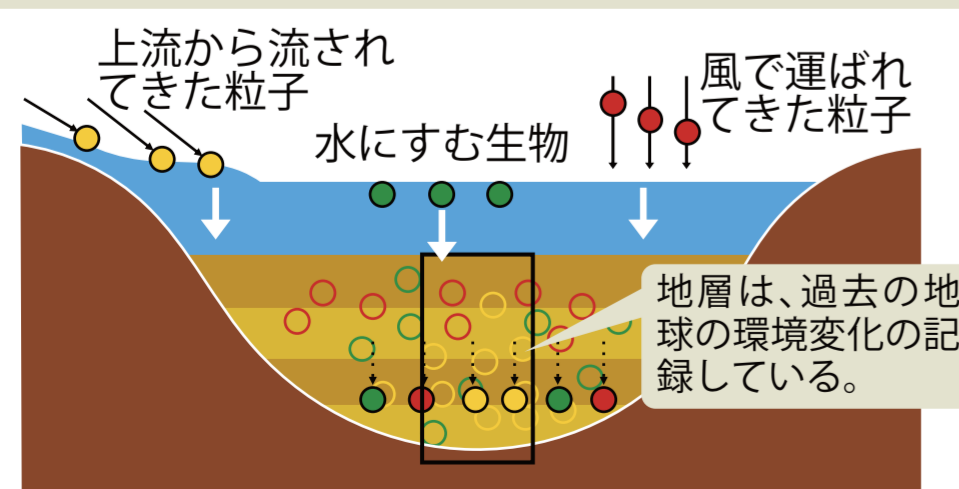
バルト海（スウェーデン）



猪苗代湖（福島県）

水深や研究の目的によって色々な採り方がある。

湖や海の底にできる地層



珪藻化石から過去の環境を明らかにする方法

